

1班（過疎化）

キャッチフレーズ

やっぱり離れられない。～過疎地の中心で愛を叫ぶ～

現状・課題

●現状：町に元気がない。

⇒基礎的な課題と各方面への影響

①商業

- ・シャッター商店街。物価が高い。スーパーやお店が少ない、または遠い。
〔年金で暮らしている高齢者には不便な生活…〕

②工業

- ・後継者不足。仕事がない。地元で就職できるのか就職への不安〔若者が暮らしにくい…〕

③教育

- ・学力問題（近くに塾がないため学校での勉強が全てで学力が担任の力量に依存する。）
長野県に大学が少ない。県外に進学して県外に就職してしまう。
〔子ども、学生が学びにくい…〕

④その他

- ・都会と田舎の情報格差。老々介護。老人の孤独死。交通の便が悪い
車移動をせざるをえない。

⇒町に元気がない現状に共通する点：人がいない。

- ・伝統を受け継ぐ後継者がいない。文化・伝統の衰退。子どもが少ない。若者がいない。
結婚相手を見つげにくい。医者がない

※人がいなくなり、①～④等の各方面に悪影響を与えた結果、町に元気がなくなっている。

取組・方策

◎取組：過疎地ならではのいいところを活用し、①～③等各方面での取組により、町を元気にする。

○過疎地ならではの良いところ

- ・安全。お年寄りが元気。地域（近所）との結びつきが強い。
≪「住み慣れた土地で暮らしたい」と思える地元愛が育まれる環境≫

①商業

- ・商店街に統一感をもたらし、コアなファンを呼び込む。
町の有名なもの、おいしいものを活かす。
おばあちゃんの味、昔ならではの様々なものをお年寄りに教えてもらう。

②工業

- ・退職後に戻れる体制づくり。お年寄りならではの仕事をする。若者の仕事を増やす。

③教育

- ・県内大学進学への支援（県内就職に有利、入学金・授業料などの県民割など）